

## 【施】第4章 外郭施設

- 7) 加川道男, 久保直: サンドマシック注入捨石の安定に関する実験的研究, 第12回海岸工学講演会講演集, pp.251~257, 1965.
- 8) 下迫健一郎・高橋重雄: 期待滑動量を用いた混成防波堤直立部の信頼性設計法, 港湾技術研究所報告 Vol.37, No.3, pp.3~30, 1998.
- 9) 下迫健一郎・多田清富: 混成堤の性能照査型設計法における滑動量の許容値設定に関する検討, 海岸工学論文集 第50巻, pp.766~770, 2003.
- 10) 吉岡健, 長尾毅, 森屋陽一: ケーソン式混成堤における部分係数の滑動量を考慮した設定方法に関する研究, 海岸工学論文集, 2005.
- 11) 森屋陽一・鷲尾朝昭・長尾毅: ケーソン式混成堤の滑動量に基づくレベル1信頼性設計法, 海岸工学論文集, 第50巻, pp.901~905, 2003.
- 12) 吉岡健, 佐貫哲朗, 長尾毅, 森屋陽一: 波浪の極値分布を考慮したケーソン式混成堤の滑動量に基づくレベル1信頼性設計法に関する研究, 海岸工学論文集 第51巻, pp.851~855, 2004.
- 13) 沿岸技術研究センター: 港湾構造物設計事例集(下)(平成19年改訂版), 2007.
- 14) 高橋英紀, 佐々真志, 森川嘉之, 渡部要一, 高野大樹: 津波に対するケーソン式防波堤マウンドと腹付工の安定性, 港湾技術研究所報告, Vol.54, No.2, pp.21-50, 2015.
- 15) 佐藤健彦, 宮田正史, 高橋英紀, 竹信正寛, 下迫健一郎, 鈴木高二朗: 腹付工を有する防波堤の耐波設計法の提案, 国土技術政策総合研究所資料No.954, 2017.
- 16) 防波堤の耐津波設計ガイドライン, 国土交通省港湾局, 2015.
- 16-1) 栗原大, 高橋英紀: 腹付工を有する混成堤の破壊特性と粘り強さを増す腹付工の形状, 港湾空港技術研究所報告, Vol.62, No.1, pp.20-41, 2023.
- 16-2) 高橋英紀, 神原晋, 福尾原悟, 山谷早苗: 腹付工による混成堤ケーソンの端趾圧低減効果, 土木学会論文集B3(海洋開発), Vol.75, No.2, pp.I\_415~I\_420, 2019.
- 17) 谷本勝利, 柳生忠彦, 村永努, 柴田鋼三, 合田良実: 不規則波実験による混成堤マウンド被覆材の安定性に関する研究, 港湾技術研究所報告 Vol.21, No.3, pp.3~42, 1982.
- 18) 木村克俊, 水野雄三, 須藤賢哉, 桑原伸司, 林倫史: 混成堤堤頭部のマウンド被災特性と被覆材の安定重量算定法, 海岸工学論文集 第43巻, pp.806~810, 1996.
- 19) 下迫健一郎, 久保田真一, 浜口正志, 松本明, 半沢稔, 中野史丈(2008): 混成堤における根固方塊および被覆ブロックの合理的な形状とその設計法, 港湾空港技術研究所報告, Vol.47 No.2, pp.89~110, 2008.
- 20) 尾崎晃, 鴻上雄三, 松崎勝夫, 田崎邦男, 西川利一: アスファルトマットの撓み変形の模型化と洗掘実験, 第32回海岸工学講演会論文集, pp.450~454, 1985.
- 21) 木原力, 甲斐正義, 鳥居雅孝, 望月規行: 防波堤前面の洗掘対策について, 第35回海岸工学講演会論文集, pp.402~406, 1988.
- 22) 鈴木高二朗, 高橋重雄: 消波ブロック被覆堤のブロック沈下に関する一実験—マウンドとブロック下部の洗掘—, 海岸工学論文集第45巻, pp.821~825, 1998.
- 22-1) 田中豊, 川端雄一郎, 小林怜夏, 竹信正寛, 横田弘, 山本修司, 鈴木高二朗, 下迫健一郎: 既設防波堤上部工の嵩上げにおける部材接合部の照査法の整理, 港湾空港技術研究所資料, 2023.
- 23) 土木学会: コンクリート標準示方書(施工編), pp.126~132, 2012.
- 24) 合田良実: 耐波工学—港湾・海岸構造物の耐波設計, 鹿島出版会, 2008.
- 25) 森平倫生, 柿崎秀作, 菊谷徹: 異型ブロックの波力減殺効果に関する研究, 港湾技術研究所報告 Vol.6, No.4, pp.1~31, 1967.
- 26) 鴻上雄三, 時川和夫: 施工段階における消波工の波圧減殺効果に関する実験的研究, 北海道開発局土木試験所報告 第53号, pp.81~95, 1970.
- 27) 鈴木高二朗, 高橋重雄: 消波ブロック被覆堤のブロック沈下に関する一実験—マウンドとブロック下部の洗掘—, 海岸工学論文集 第45巻, pp.821~825, 1998.
- 28) 五明美智男, 堺和彦, 高山知司, 寺内潔, 高橋重雄: 消波ブロック被覆堤のブロックの安定性に関する現状調査, 海岸工学論文集 第42巻, pp.901~905, 1995.
- 29) 五明美智男, 高橋重雄, 鈴木高二朗, 姜閔求: 消波ブロック被覆堤のブロックの安定性に関する現状調査(第2報), 海岸工学論文集 第44巻, pp.961~965, 1997.
- 30) 竹田英章, 赤塚雄三, 河口隆明: ブロック式直立消波構造の水理特性, 第23回海岸工学講演会論文集, pp.120~123, 1976.
- 31) 柳生忠彦, 湯坐美幸: 直立消波ブロック式防波堤構造集覧, 港湾技研資料No.358, p.314, 1980.
- 32) Jarlan, G. E.: A perforated vertical wall breakwater, The Dock and Harbour Authority, Vol.41 No.488, pp.394~398, 1961.
- 33) 細川恭史, 三好英一, 菊地治: 直立消波護岸の水理特性および曝気能実験, 港湾技研資料No.312, p.23, 1979.
- 34) 森平倫生, 笹島博, 久保省吾: 多孔式の魚礁効果, 第26回海岸工学講演会論文集, pp.348~352, 1979.
- 35) 沿岸開発技術研究センター: 新形式防波堤技術マニュアル, 1994.
- 36) 谷本勝利, 吉本靖俊: 直立消波ケーソンの反射率に関する理論及び実験的研究, 港湾技術研究所報告 Vol.21 No.3,